

# 今年ば西原町小波津で50体収容

## 第7回「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」

# 平和の灯

題字 津留崎尚  
戦没者追悼と  
平和の会発行  
〒849-0112  
佐賀県三養基郡みやき町  
江口7561  
塩川総合企画㈱内  
発行責任者 塩川正隆  
電話 0942-89-5135  
FAX 89-9281  
e-mail senbo-peace@senbotsusya.com  
http://www.senbotsusya.com

### 全国から40人が参加 半数近くは20〜30代

1月14日から16日にかけて沖縄県西原町で恒例の「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を実施しました。全国から40人(男性31人、女性9人)が参加し、これまで最多の50人の遺体を収容しましたが、身元の判明につながる遺留品などを発見することはできませんでした。

7回目となる今回の旅では、初めて戦争体験者の参加がなくなり、戦後65年の歳月の重みを感じさせました。

亡くなった世帯は128世帯におよびました。一家全員死亡も30世帯ありました(西原町史第3巻資料編「西原の戦時記録」)。

事実を物語っていました。また、軍馬の下顎部なども発見しました。

前回は手榴弾、薬きょう、バッテリー、眼鏡のレンズなど回収しましたが、今回は遺留品を見つけないことではなかった。

「普通戦争を考えると、現場を見ることで戦争があった、死者があった、と実感した」(福岡県参加者)、「命の尊さ、はかなさを感じた。自分ができることは平和に感謝しながら日々精進することだ」(福岡県参加者)、「何十年も暗いところで眠っていた遺骨を、明るいうちに連れてこられてよかった」(佐賀県参加者)、「父は沖縄戦で戦死。私は旧満州(中国東北)から引き揚げ、悲惨な思いを体験した。若い人ともに戦争を伝えていきたい」(千葉県参加者)、「こんなところで亡くなったのか、といつも思う」(国が)65年間も雨ざらしにしていることは許されない」(神奈川県参加者)、「沖縄戦で父を失った人が、父のこともつづやいた言

「戦死した人達は大体自分たちと同じ世代。遺骨を直視して感慨深いものがあった」(東京都参加者)、「この体験を家庭や職場で話していただきたいと思う」(佐賀県参加者)、「こんな土の中で長い間、申し訳ないと思いついていった。一人でも多くの方が家族のもとに戻れることを祈ります」(福岡県参加者)

「初めて参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)



急斜面を切り開く作業開始

作業を行ったのは、西原町小波津地区の陣地壕があった雑木林。西原町史によると、小波津地区は純農村の集落(144世帯、637人)昭和19年)でした。しかし、全住民の半数を超える34人が戦没、一人以上が

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

小波津は住民の半数が死亡

各グループは、地面を掘り下げていくうちに胸骨、大腿骨などを次々見つけてきました。完全な形の頭蓋骨や鼻の部分はないが、両眼が一部残った頭蓋骨も発見されました。

放射線技術師である専門員らの鑑定で、遺体は50人であることが分かりました。

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々に出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々が出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々が出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々が出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々が出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

「初めに参加した。どんな気持ちで亡くなったのか、それについて考えた。熊木県(参加者)、「掘り進めていると、小さな骨が次々が出てきた。こんなにもあるものか、と驚いた」(京都府参加者)、「まだ、骨がこんなところにも埋もれていることに衝撃を受けた」(佐賀県参加者)、「この活動は長く続けることに意義がある」(東京都参加者)

### 群馬の遺族にはがきを返送 持ち主の実弟に返還

太平洋戦争中、旧満州(中国東北)に応召していた静利八郎さんの遺族に、60数年ぶりに兄のはがき(軍手郵便)が60年ぶりに群馬県の遺族の元に届けられました。



静さんは旧満州からマニラ諸島アライウン島に転戦、昭和19年2月に戦死。はがきは旧満州で書いたが、送る機会を失い、アライウン島まで持っていたらしいとのこと。保存していた沖縄県立歴史研究所が当会に遺族捜しを依頼。2003年、厚生労働省に照会しましたが、「該当者なし」の回答を受けていました。

当時の住所、遺族がわからず、今年1月末、当会が群馬県庁を訪れ、調査を依頼した結果、遺族(実弟)が群馬県内に住んでいることが判明しました。当会は2月10日、群馬県庁に出向き、静さんの遺族にはがきを手渡しました。





平和祈念資料館をバックに記念撮影

回	日程	場所	参加人数	遺体収容数	発見遺体	電氣探査	遺体判明
第1回	2005年2月11-13日	那覇市小波津原給油所付近	33名	なし	軍靴・手袋類 印章(青井・引子元・外山) 発火機(引子元・外山) 枕巻機(引子元)	糸満市指令部跡跡	引子元・外山・成田・平田(遺体4件) 青井
第2回	2006年2月10-12日	南城市大里城跡周辺	20名	4体	軍靴、手袋類 小銃の弾薬、薬きょう ボタン、指輪	新垣地区 西原地区	
第3回	2007年1月19-21日	南城市大里城跡周辺	45名	2体	軍靴のホルスター、弾薬入れ等 軍靴のボタン、乾電池	新垣地区 豊見城地区	
第4回	2008年1月18-20日	糸満市大原嶽本林及び自然墓 糸満市摩文海軍 糸満市荒崎海岸「ひめゆり学徒隊の跡」周辺	42名	9体 2体		糸満の塔付近 海軍公園敷地内	
第5回	2008年11月14-16日	糸満市摩文海軍 「ひめゆり学徒隊の跡」周辺	33名	27体		若松の塔(臨海探査・ボーリング調査舎) 首里城公園内指令部跡跡	
第6回	2010年1月15-17日	糸満市摩文海軍	46名	8体			
第7回	2011年1月14-16日	西原町小波津原給油所付近	40名	50体			

日本人の忘れもの  
代表理事 塩川正隆

1月14日から16日まで沖縄県西原町の小波津陣地壕付近の雑木林や壕で沖縄戦戦没者の遺体収容活動を行い、50体の遺体を収容しました。

この数は、沖縄県で1年間に収容される戦没者の約半数です。近くには観光名所となっている「小波津陣地壕」があります。

「小波津陣地壕」がありますが、沖繩県内にはまだ、だれも手をつけていない未開封の壕が1000か所近くあるといわれています。

今回、発掘した遺体は予想以上に多く、日本政府の杜撰な「戦後処理」を改めて感じた次第です。

企画(戦没者遺体収容の旅)は、今年で7回目に なりますが、合計で102体の遺体を発掘しました。

海外で相手国の了解が得られない国ならいざ知らず、ここは日本の沖繩です。一昨年の荒崎海岸のひめゆり部隊隊団自決の跡地の雑木林から発見された遺体もそうですが、収容しようと林に足を踏み入れればすぐにでもできる観光名所の場所です。

戦争体験者でもある太田元稟知事は、世界遺産の首里城の地下は戦没者の墓場になっていると証言されており、一日も早い発掘を望んであります。

硫黄島の自衛隊飛行場滑走路の地下は日本兵の墓場であったことが、米軍資料によつて明らかに なり、現在発掘作業を行つてありますが、米軍資料に基づけば、海外では数十万人の遺体が収容可能と言われています。

感想文



大阪府  
坂本隆司さん(41)

日本は戦後の復興から南を食いしぼって世界3位の先進国を射止めた。豊かな日本を築いてくれた先輩たちの努力を評価こそすれ否定はいけません。しかし戦後65年日本人は何か大切なものを忘れてきたような気がしてなりません。

世界各地には百万人を超える戦没者が残された郷への帰還を待ちわびています。今回から戦争体験者が参加できなくなり、貴重な話を聞けなくなり、私どもはこのまま戦争を、戦没者を忘れて去つていってしまうのか、戦後65年続いた自民党から民主党に政権が替わり、総理自らが太平洋戦争の激戦地・硫黄島に赴きました。

総理は「最後の一体まで収容するのが国の責務」と力強い言葉を発し、戦没者収容のための「法制化」を進めています。

私ども遺族にとつてこれは以上、うれしいことはありません。私は、沖縄戦で父親を亡くしたため、1977年(昭和52年)から今日まで、戦没者収容をボランティアで行つておられます。34年前、初めて訪れた沖繩の壕の中には遺体や遺留品が散乱していました。当時の状況は今でもはっきりと目に焼き付いています。これでは「父親は浮かばれない」との肉親の情から戦没者収容活動を思い立ちました。

これからも、日本人が忘れようとしている大切なものを求める活動を継続したいと思います。

これからも参加  
阪本隆司さん(41)

この旅への参加も今回で3回目となった。前回は全く根拠はないながら「そこ」という妙な確信を持った場所をひたすら掘り進み、結果お一人も見つけることができなかった。思いが強く、周囲で掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。思いが強く、周囲で掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。思いが強く、周囲で掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。

遺骨の収容を始め、併せて遺留品がないかと探していったのだが、ここで撤収の指令。壕の中にいたので気付かなかったが、これからの旅には、この思いが強く、周囲で掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。

天候不良で早めの切り上げとなったようだ。まだ掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。

この旅への参加も今回で3回目となった。前回は全く根拠はないながら「そこ」という妙な確信を持った場所をひたすら掘り進み、結果お一人も見つけることができなかった。思いが強く、周囲で掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。

天候不良で早めの切り上げとなったようだ。まだ掘っていた人がみんないなくなるとは、もう「ここ」はもうない。

戦没者の思い出伝わった  
京都府  
山岡太郎さん(39)

今回初めて沖縄での遺体収容の旅に参加させていただきました。毎年会社での先陣者が参加されていり、報告は毎回して頂いていたので、まだまだ沖繩には御遺骨が土の中に埋まっていることと作業は困難な極めるとの報告は受けておりました。

そして自分も大変な作業に耐えられるように体調万全の状態に挑みました。

初めての沖繩へ着き、思ったのは、1月とは思えないくらい暖かいなと感じました。そして、沖繩の空を見上げて、この歯をくいしばり必死に戦ったであろう戦没者の方の気持ちが湧いてきて胸が熱くなりました。朝からの作業もあつたという間に過ぎ去り作業終了の合図がありました。報告によりまして、50体の御遺骨が出たそうで、これまたびっくりしました。

本当にあつたという間に時間が過ぎ去つた3日間でしたが本当にいい勉強になりました。平和ボケ気味である現代人の心を揺さぶられた経験となり、参加者の皆さんもとても勉強熱心で優しい方ばかりでよい旅となりました。

事務局の皆様本当にありがとうございました。

平和な日本で悲惨な現実  
福岡県  
田代幸博さん(61)

私自身は昨年に続いて、2回目の参加でした。

今回の場所は「西原町小波津陣地壕」で木や草が生い茂つた急斜面の上。約20mの壕があり、そこに日本軍が立てこもり、アメリカ軍と激しい戦いを続けた場所。多量の戦死者の遺体がある中、斜面に散乱している可能性のある遺体で、3、4週間前に登山家の野口健さんがこの周辺に入った際の調査を行い、今回の参加の運びとなりました。

今年私たちが担当する壕では「飯盒」を発見したと、何となく少しの期待も感じましたが、遺体でも発見できれば、その期待を持って作業を始めました。すでに終戦から65年以上経過しており、約2mの上砂が壕の周辺に堆積していると、スコップを使用し4名のメンバーで掘り下げにかかりました。岩盤まで掘り下げるのはなかなか大変な作業で4時間以上かかり、ようやく固い地盤部分に到達しました。丹念に土の中に異物が残っていないか探しましたが、残念ながら兵隊さんらしい遺骨は出てきませんでした。今度もスタッフが皆様には大変お世話になりま

戦争を風化させない  
福岡県  
林 知憲さん(25)

今回2度目の沖繩遺体収容の旅に参加させていただきました。初めて参加させていただいた時と変わらず遺体が発見された時にはとても悲壮な気持ちになりました。

遺体収容現場は特別な場所というわけではなく、民家から徒歩で10分もかからない山間の静かな場所でした。

沖繩特有の亜熱帯性植物が覆い茂り、見ると、ここで激戦が繰り広げられたことなど想像もつかないような印象でした。

しかし作業開始から1時間経過後、周囲が静かになり、あちらこちらで遺体が発見され始め、骨が老朽化し、見えないように細かい木くずのように細かくなつたものから、完全な状態の頭蓋骨まで合計50回分の沖繩戦没者遺体収容の旅が始まりました。

今年も収容場所が沖繩戦で半壊の町民が亡くなつた西原町と知り、驚かす遺体が数多く残っていたのは、かつて日政府への憤りを強く感じました。

美しい海と雄大な自然の素晴らしい沖繩。平和を祈りながら、今一度、消えることのない暗い過去という二面性を感じ、過去の暗い過去を、今回の参加で身をもって体験することができました。

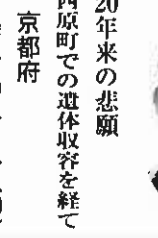
先人達が託してきたあまりに大きな代償を無駄にしないといけないと思



福岡県  
林 知憲さん(25)

20年来の悲願  
京都府  
廣野和久さん(40)

昨秋、沖繩行きを平和ツアーに応募するも季節外れの台風のため早々に中止。仕方なく個人的に西原町での遺体収容を経て



京都府  
廣野和久さん(40)

# 厚生労働省の対応に変化 戦没者にほのかな光も



移転新築される事となった遺骨安置室

当会は、戦没者の遺体収容や遺留品の返還を求めて2010年10月30日及び2011年2月7日、日本政府の窓口である厚生労働省外事室に申入れを行いました。

政権交代から1年が過ぎ、沖縄県の仮安置室の新築など沖縄県の

対応や硫黄島の遺骨収集・アメリカ国立公文書館の調査など戦没者にとって「ほのかな光」が見えてきた感もありますが…?

## 沖縄県戦没者遺体 仮安置室新築に

沖縄県平和祈念公園(糸満市摩文仁)にある沖縄県戦没者の遺体仮安置室が同敷地内にある国立墓苑前に新築移転されること、1月、垣花沖縄県福祉援護課長より発表されました。

この安置室は、沖縄県内で収容される遺体を仮安置し、毎年3月に火葬し埋葬するものですが、収容された遺体の扱いがゴミくず同然であったために、当会が改善を求めていたものです。

# アメリカから日章旗返還 遺族捜しに全力

## 米テレビ局でも返還を呼びかけ

アメリカ、ニューヨーク州シラキュースに住むマーティン・コナー氏はこれまでナール氏より当会宛に遺族を捜してほしいと日

草旗など戦没者の遺留品が送られてきました。コナー氏はこれまで多くの遺留品を返還しており、当会が4人

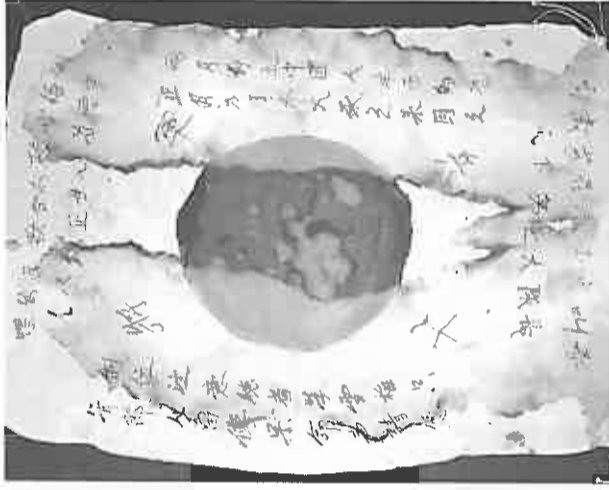
の遺族の元へ遺留品を届けた実績があります。また、このことがアメリカテレビ局CNNで放送されることとな

硫黄島で戦死した山田忠雄さんのものと思われる



日章旗①

ニューギニアで発見された血染の日章旗。中国語で天皇と彼女のために戦つと書いてある



日章旗②

戦後に書かれたと思われる日章旗。朝鮮独立万歳。釜山市の住所が書かれている



日章旗③

折貴家幸福森田五郎と書いてある。森田さんのものかそれとも森田さんが誰かに渡したのか?



日章旗④

# 「戦没者名簿の一元管理を」 日本政府に申し入れ

当会ではこれまで、116の遺留品を遺族に返還してきましたが、遺留品の返還を行う中で、日本政府(厚生労働省)に旧陸軍の名簿が揃っていないという事実が判明しました。

旧陸軍の戦没者は本籍地の都道府県に照会しないと分からなため、遺留品の照会を厚生労働省にかけると、遺族の住所と戦没者の出征時の住所が異なる場合「該当者なし」との回答が来ている事実が1面記載の静利八郎さんの軍事郵便で明らかになりました。

静さんの場合、遺族は群馬県にお住まいですが、出身県が群馬県と異なったために、厚生労働省からの回答は「該当者なし」でしたが、当会が群馬県庁に赴き遺族(弟さん)が判明したものです。

戦後65年も経過しておりこのような戦没者遺族のケースは多々あると思われるので、戦没者名簿の一元化(靖国神社は行っている)を求めるものです。

## 第47回佐賀県母親大会に参加して

理事 谷川 仁

平成22年11月7日に第47回佐賀県母親大会が佐賀市アバンセにて開催され、当会を代表し分科会の助言者として参加しました。母親大会とは、全国もしくは都道府県別に連絡会があり、これまで約半世紀にわたる様々な団体や地域から母親・女性らが集まり、くらしや平和を守る活動の起点となってきた歴史ある集いといわれています。今回の佐賀県大会でも、二度と戦争を起こさないという願いを込め「ニュー

T再検討会議」での活動報告や高校生平和大使による核兵器の廃絶と平和な世界を目指す「高校生1万人署名活動」の記念講演などのプログラムが組まれていました。私が参加した第5分科会では、「平和と憲法」9条の会を以て「沖縄と安保について考える」というテーマに沿って、主に佐賀県内の様々な地域に結成された9条の会メンバーによる活動報告がなされました。冒頭、分科会の助言者として、当会の沖縄戦戦没者遺骨収集ツアーについて報告する機会が得られ、収集現場の写真を見せながら、我が国の沖縄戦における戦後処理の実態やこれまでに収集した遺品の返還実績、また当会が新たに取り組んでいる戦没者遺族のDNAを保存するキットの普及活動などについて紹介しました。

会場からは、遺骨が映し出された写真に驚きや隠せない発言や遺骨収集の体験を希望する声がかかるなど、当会の活動に興味や関心を窺わせるご意見やご感想を数多くいただきました。当会が行なう戦没者の慰霊活動が、参加された方々の憲法9条を堅持する平和活動の一助になれば幸いです。最後に、このような機会をいただきました佐賀県母親大会実行委員長の汐待和子さんに心より感謝いたします。



# 永田勝美理事長逝去



永田理事長

## レイテ戦没者の収容に尽力

当会発足(2002年11月)以来理事長を務めてきた永田勝美理事長が昨年11月、亡くなられました。95歳でした。「100歳まで頑張る」と会費も前納し、戦友の収容に執念を抱いておられただけに残念でなりません。

また、俳人として多くの著書が出版されています。主に自らが体験したレイテ・レイテ島での体験を基にした題材は、多くの方々の胸を打つものがあります。

永田さんは、島根県出身で復員後福岡県小郡市にお住まいで、レイテ・レイテ島で戦死した戦友の遺骨収集に尽力されました。

その中で、永田さんがレイテ・レイテ島ピリアバの「日比合同慰霊碑」に残した「往くもなし還りもならず兵枯るる」を今後とも守ることを約束しお別れの言葉と致します。



永田理事長が戦後までこもったカンギボット山



当会がカンギボット山に建立した世界慰霊平和公園の碑

# 特定NPO法人化を目指して 1人3000円のご協力を

### 募金協力者一覧

赤安	峰達	大秀	介利	神北	戸澤	道賢	夫一	様一	鈴木	滋瑠璃子	中嶋	法克	忠巳	八木	正末	志廣	様廣
荒川	和博	有馬	彰博	犬塚	美奈子	井上	誠	岩下	博	岩下	元二	岩元	安郎	梅崎	利子	浦川	薫
戎谷	亘子	遠藤	裕邦	大坂	剛三	奥村	洋末	小俣	文男	加藤	政實	金子	美代子	川浦	秀雄	川村	博文
神北	城戸	清藤	久美子	久家	好	工藤	勝泰	黒江	保正	郷富	雄	小曾	我信	小坪	隆康	小林	史子
坂口	高士	櫻井	良郎	座間	淳子	寒川	尚周	塩川	正隆	島袋	全裕	島靖	彦	末安	伸之	菅原	智之
鈴木	善家	高木	一希	高橋	徳次	高橋	睦子	武田	美晴	田代	和誠	田代	美代子	立石	義人	田中	節子
谷川	仁	田村	智亮	筒井	喜記	津留	崎サツミ	出屋	ミサ子	寺澤	雅子	鳥部	政文	永井	幸治	中島	泉
西村	茂利	中村	史朗	中村	隆一	中村	信之	西田	昌昭	西山	政志	樋口	洋光	福岡	賢二	福岡	留良
藤野	雅博	前川	政男	前園	郁恵	眞砂	千代子	松井	理江子	松隈	平和	松永	英樹	眞鍋	和正	森山	靖子
九州日商興業株式会社	久留米運送労働組合	久留米労働組合	塩川総合企画株式会社	自治労久留米市労連	三葉電機	ジャパンパイル	中国帰国者の会	日本ヒューム株式会社	福教組久留米支部	明光電機株式会社	連合三井地区						

日本政府は昨年末に、政府税制大綱を閣議決定しました。それによると、NPO法人に寄付すると寄付金から2000円を引いた額の半分を所得税から減額するというものです。この優遇措置を受けるには、認定NPO法人とすることが必要ですが、認定NPO法人の資格を得るのは困難です。全国にNPO法人は4万ある中で認定NPO法人は僅か188団体、佐賀県に至っては1団体しかありません。(昨年12月1日現在)このような現状を緩和するために、政府は認定の基準を緩和する方針で、年3000円以上の寄付を平均100人以上から集めていけば、認定NPO法人として認める方針です。当会の活動は、皆さんの会費と寄付金によって支えられていますが、まだ認定NPO法人の資格を得る条件には至っておりません。そこで、認定NPO法人資格を得るために、一人3000円のご協力をお願いします。

## 戦没者調査募金

### 「アメリカ国立公文書館」資料 沖縄から年内着手

当会ではアメリカ国立公文書館に、太平洋戦争中、アメリカ軍が作成した日本兵埋葬地図があることを確認し、日本政府に埋葬地図を元にした戦没者収容のための調査を求めています。その結果、硫黄島の調査が始まり、成果が上がっていることがマスコミによって報道されています。アメリカ国立公文書館の日本兵埋葬地図は硫黄島だけに限ったものではありません。当会では昨年、戦没者調査のための募金を多くの方に呼びかけていましたが、1月末現在で約五十万円の募金が集まりました。募金活動は引き続き行ってまいります。年内をめどに沖縄の調査を始めたと思いますので、ご協力お願いいたします。

### 参加者募集

#### 第16回日比合同平和式典とカモテス島調査

当会は8万人の日本兵が戦死した、レイテ島の平和を祈る平和式典と、レイテ島で戦死した戦友の遺骨を埋めたいという思いを込めて、平和式典とカモテス島調査を行います。

今年16回目を迎えることになりました。この式典は、永田勝美理事長が戦後50周年の節目にはじめられたもので、平和式典とカモテス島調査を行います。

永田理事長の逝去の報告を現地の方々に伝えるとともに、戦友の元に眠りたいという永田理事長の生前の意思を受け、遺骨を埋めたいと思いを込めて、平和式典とカモテス島調査を行います。

また今年、レイテ島オルモックから約65kmにあるカモテス島の調査も併せて行います。

多くの皆様のご参加をお願いします。

日程(予定) 平成23年6月27日(日)から7月3日(日)まで

6月27日 福岡空港集合マニラ行き

6月28日 マニラ空港からレイテ島タクロバン行き

6月29日 鳥タクロバンからモン峠経由マリテ小学校で式典打ち合わせ

6月30日 マニラ空港から福岡空港へ

7月1日 タクロバンからマニラ空港へ

7月2日 マニラ空港から福岡空港へ

7月3日 福岡空港にて解散

費用 17万円(バス、船、宿泊、食料、交通費) 費用は参加人数によって減少することがあります。

また今年、レイテ島オルモックから約65kmにあるカモテス島の調査も併せて行います。

多くの皆様のご参加をお願いします。

平和式典とカモテス島調査を行います。

永田理事長の逝去の報告を現地の方々に伝えるとともに、戦友の元に眠りたいという永田理事長の生前の意思を受け、遺骨を埋めたいと思いを込めて、平和式典とカモテス島調査を行います。

また今年、レイテ島オルモックから約65kmにあるカモテス島の調査も併せて行います。

多くの皆様のご参加をお願いします。

### 後記

政権が交代して1年が過ぎました。と述べた姿勢とは大違いです。民主党政権は多くの国民の支持を得るまでには至っていませんが、戦没者への対応については、首相補佐官をアメリカ国立公文書館の調査に派遣し、菅総理自らが2万人が戦死した硫黄島で遺骨収容を行うとともに、「最後の一体まで収容するのが国の責務」と決意を述べました。私たちが遺族にとっては当然のことはいえ、ありがたいことです。自民党政権下、時の厚生労働大臣尾辻氏(日本遺族会副会長)が「遺骨収集はきりがないので3年で打ち切る」との意見があればお寄せ下さい。